

## 新城市地域産業総合振興条例にかかる実態調査

### ヒアリング調査

実施期間 平成 26 年 11 月 6 日～11 月 20 日

実施対象 79 事業所

調査員 審議会委員 2 名 審議会委員推薦者 3 名

愛知大学ゼミ生 19 名(延べ)関係課市職員 8 名 事務局職員 3 名

(回答事業者属性)

事業所規模については、従業者 10 人未満が 38 事業所、10 人以上 20 人未満の 16 事業所、20 人以上 30 人未満が 7 事業所、30 人から 50 人未満が 7 事業所で、50 人以上は 9 事業所で不明が 1 事業所である。

〈市内の事業所はほとんどが中小企業・個人事業主である。〉

#### ① 異業種間連携の必要性について

「必要」と回答した事業者は、全体の 89.4%であり、すでに「実施ないし計画」と回答した事業者は、51.9%である。「必要」と答えたが「実施していない」と回答した事業者が、36.4%である。業種別ではばらつきが大きく、観光業、製材業などは比較的連携を進めている傾向がある。

〈「必要」と回答しながらも、「実施・計画ができない」と回答する事業者があり、支援が必要ではないか。〉

#### ② ヒアリング調査における聴取内容

以下では、ヒアリング調査における聴取した内容のうち、主なものを掲載します。

##### ① 消滅可能都市への考え方と市に必要なものについて

###### ○ 魅力について

- ・ 田舎に住みたい人がいるか。
- ・ 新城市とは何かというものが無い。取り柄が無ければ負けていく。方向性が分からないから、市民もついていけない。
- ・ 住みやすい街づくりは魅力がなければ。新城として何か推進するものを考える。
- ・ 若い人を呼ぶ魅力を。企業誘致の推進を。
- ・ 住みにくい街ではない。むしろ都会の方が住みづらい。
- ・ 新東名を活用し、産業を誘致。人口減少は呼び込みが必要。奥三河から人を呼んでくる。
- ・ 魅力になるものを創り上げる⇒イメージアップを図る。

- ・実情として仕事が無いわけではない。ただ住環境で他市に負けている。
- ・「田舎」というイメージを払拭する政策を。
- ・市の（魅力）のPRをもっと盛大に行う。
- ・地産地消ではなく、地産外消を
- ・新東名をうまく利用する。
- ・良くも悪しくもメディアに注目してもらい、利用する。マスコミを取り込む。
- ・若い女性にウケるもの。
- ・歴史好きをターゲットにしたもの。営業に来た人が時間をみて市内の歴史関係の観光スポットに行っているらしい。
- ・現在は高齢社会なので、新城市を中心に介護ワーカーの育成をすればいいと考えている。特に外国人を中心に。
- ・まずは、新城を見て貰えば、良いところが分かる。
- ・新城には宝がたくさんある。だから他地域よりも早くアピールが必要。
- ・新城市の魅力である「安全」をどうアピールしていくかが重要。
- ・地元の人々が新城市に隠されている魅力をPRしていくことが、重要である。
- ・小学校の廃校を活用したら。
- ・地元の魅力のある商店街
- ・土地利用・住環境の魅力化(広い土地でのびのび生活できる環境づくり)
- ・都市部では土地が高く、居住できない。新城を都市のベッドタウンに。
- ・低価格によるリピーターの確保
- ・魅力ある制度を作る。これにより人をひきつけ、人口増加を。
- ・その他にも、桜淵はいいところなので、もっとPRしてほしい。
- ・歴史ある街なので、道の駅周辺の歴史スポットのPRをしたり、スタンプラリーなどで史跡めぐりをするのもいいのではないかと考えている。

## ○人口について

- ・市外の人を受け入れられる体制づくり。
- ・行政が新規分譲を行ったりして人を呼び込む必要があると思う。
- ・もっと企業を誘致して雇用機会を確保し、市内居住者を増やす。
- ・もっと魅力の発信を。浜松市のベッドタウンになるような施策を。
- ・人口が少ない。高齢化。地元に残る若者が欲しい。買い物人口が減っている。
- ・人口減少から、中小企業がなりたたなくなる。
- ・人が来る施策を。またはコンパクトシティを目指す。
- ・人口が減少し、商業で集客が望めない。
- ・離農が多く、外から人が来れる環境を。
- ・市内に助産所だけでなく、子どもを産める環境を。
- ・子育てができる土地でないと、人口は増えない。中高生の送り迎えなど通学に難。

- ・市内に住んでいる人の子供が独立するために家を建てることは多いが、外から来る人は少ない。
- ・ネット環境があれば仕事ができるという人を対象に、空き家対策で家を提供する。
- ・現状では人口増は不可能、定年後戻ってくるようなことを考える。
- ・住んでいる人には関係ない、住めなくなる訳ではない。
- ・人口を増加させるしかないが、働く場所の確保が必要。
- ・中心部に人が集まり、周りが減ることはしょうがない。
- ・消滅というようなネガティブキャンペーンは好ましくない。人口減は当然のことであり、仕方がない。
- ・外国人労働者をどれだけ入れられるか。生活習慣や文化が違う面から難しいことだが。
- ・企業がないと人が来ないのではないか。
- ・人口を増やす、まとめることが必要。そのためには外国人を雇い活用することが必要。
- ・新城地区より他の地区の方が人口減が大きい。
- ・人口流出が多く過疎化が早い、前からそう言われていたので気にしていない。手を打たないといけない。役所だけでなく、住む人全員で。
- ・人を呼び込む。移住者への優遇(税制)策
- ・他から呼び込む海外からの移住を含める。
- ・都会からの地域おこし協力隊(都市流出の反作用的な状況)
- ・魅力ある制度を作る。これにより人をひきつけ、人口増加を。

#### ○地域について

- ・安心して定年後、老後、最後を迎えられる街へ。
- ・社会的弱者に優しい街に。若者が最終的には戻ってくる街に。
- ・市は地域や市民に寄り添って地域力をつけ、市を盛り上げる。
- ・三遠南信や新東名で流通が良くなり地域のものが広まることが期待されるが、外のものが入ってきてしまうことが怖い。
- ・市民が市外で消費することが多くなっている。市内での消費を奨める。
- ・新東名を活用し、産業を誘致。人口減少は呼び込みが必要。奥三河から人を呼んでくる。
- ・地域ブランドというものにこだわるのではなく、心穏やかになる場所であることをアピール。
- ・地元資源(森・木々・水)の有効活用
- ・住宅用など木材の地産地消を推奨する
- ・都市部では土地が高く、居住できない。新城を都市のベッドタウンに。
- ・街がシャッター街になっている。空き家対策で学生が安く住め、地域活動をしてもらう。

#### ○雇用について

- ・もっと企業を誘致して雇用機会を確保し、市内居住者を増やす。空き店舗を活用したら。
- ・女性が働きやすい状況を。雇用や保育の改善を。
- ・地域の雇用が永住につながるような働く場所の確保が大事。
- ・気候よし、災害少ない、福祉は充実しているが、職場が無い。

- ・新城だと従業員が集めづらい。
- ・イベントを一過性のものにせず、就職先を増やす。
- ・人口を増加させるしかないが、働く場所の確保が必要。
- ・高校など学校とのつながりがあるといい。仕事内容を知ってもらう、入社が決まった学生が3月から意欲的に職場に来ることになる。
- ・外国人労働者をどれだけ入れられるか。生活習慣や文化が違う面から難しいことだが。
- ・日本人だけでなく、海外からも人を呼ぶ。外国から労働者を招く。
- ・高齢者でも働ける場所を。
- ・若い世代が減っているのは、職場が無いのが原因。
- ・ショッピング、働く場所、子育ての環境が必要。

#### ○若者・女性について

- ・女性が社会に復帰できる仕組みが欲しい。
- ・女性の社会復帰や産休などの取得についても経営的な面から個人商店には厳しい面がある。手当も出せないし、子育てに対しては個人商店では非常に難しい問題である。
- ・地元に残る若者が欲しい。
- ・若者が都会に出たがるのは当然。出ていけない高齢者や障害者もある。
- ・社会的弱者に優しい街に。若者が最終的には戻ってくる街に。
- ・女性が働きやすい状況を。雇用や保育の改善を。
- ・20歳～39歳に合った生活環境を整える。
- ・若者を増やす施策を。
- ・20歳～39歳の若者の考えを理解する必要がある。⇒実際の例に聞く。
- ・若者は選択肢に新城市を入れていないのでは？
- ・晩婚化を防ぐ。核家族化に向けた施策を。
- ・若者が住みやすい街づくりを。
- ・若者が農業をするにはリスクが大きい。
- ・若い女性、主婦が住みたいと思うような施設、スーパー、学校、医療施設を確保する。
- ・女性に対する政策がキー。
- ・若者が住みやすい町を作っていくことが必要。
- ・次世代の方がどう考えるかが重要ではないか。これからの課題を今から考えてもらう必要がある。
- ・若者政策をすべき。若者が集まる施策。

#### ○子育て、医療について

- ・子育てできる環境や医療体制が十分で無い。
- ・女性が働きやすい状況を。雇用や保育の改善を。
- ・市民病院で診察できない科があり、不安。
- ・市内に助産所だけでなく、子どもを産める環境を。

- ・子育てができる土地でないと、人口は増えない。
- ・「子育てのまち」を作る。
- ・若い女性、主婦が住みたいと思うような施設、スーパー、学校、医療施設を確保する。
- ・子どもを預ける、育児してくれる場所を設置したら。
- ・子育て(幼稚園)などの環境の充実
- ・診療所の減少。新城市民病院の負担増。
- ・医療関係が充実することが大切だと考えている。
- ・子どもたちに良い環境、教育、医療
- ・子育てのしやすい市

### ○その他

- ・市、市民、機関の変えようという意識を向上させる。
- ・他と同じことをやってもダメなので、違うことをやる。
- ・新城は、家が建てられない。調整区域だから。厳しすぎるのでは。
- ・地域間の協力が必要。
- ・この元となるものを調べなくてはいけない。原因追究。
- ・ネガティブに考えすぎている。これをきっかけとしていい方向に考えなければならない。
- ・憤慨しろというメッセージが込められているのではないか。
- ・手を打たないといけない。役所だけでなく、住む人全員で。
- ・生き残り策（他とは違いを出す技術）
- ・固定資産税の軽減等の優遇策による差別化
- ・企業を取り巻く環境にことあるごとにストレスがかかる。
- ・市民病院と診療所の共有、協力、連携。
- ・ネットワークをうまく使って、市民とつながる。
- ・健康に積極的に取り組む。⇒コミュニティのあり方の見直し。